

IINAN

まだ、名前のない働き方。



No genre
Workers
Story

発行 / 鳥根県飯南町 〒690-3513 鳥根県飯石郡飯南町下赤名380番地 Tel.0854-76-2864 Fax.0854-76-2221 E-mail teiju-center@iinan.jp
企画 飯南町まちづくり推進課、谷口印刷、sog inc./編集 井上世栄・山本 剛(谷口印刷) / 編集・執筆 井上 望 (sog) / 写真 七咲友梨 / デザイン 安田晴子(あひらのあ)Odesign/ 富田由希子(伊藤雅彦(谷口印刷))



本書の無断転載・複製を禁じます。本紙掲載の情報は2026年2月までに取材したものです。発行後、データなどが変更になっている場合もありますので、あらかじめご了承ください。 撮影協力: 奥出雲そば処 一福 頓原本店

Worker.1	学ばたガール	03
Worker.2	二人三脚パプリカ	05
Worker.3	Breaking Break.	09
Worker.4	二つの顔	11
Worker.5	声を聞く男	13
Worker.6	飄々兄弟	15
Worker.7	幸運を招くにや	17
Worker.8	セカンド☆ライフ	19
Worker.9	Mr.マルチワーカー	21
飯南町内企業リスト		25

I I N A N
No genre
Workers
Story

温泉から出勤するサラリーマン

畑でおばあちゃんと話し込む役場職員

キラキラネイルのパプリカ農家

プライベートに全力投球の工場勤務

これ、飯南町では当たり前の日常です。

「多様性の時代だ」云々言われるずっと前から

この町の働き方は多種多様。

「働く場」の選択肢は、都会ほど多くないけど、

「働き方」の選択肢は、わりと無限大かも。



※「飯南町ふるさとの森 森林セラピー基地」は、森林浴による癒し効果が科学的に認められ、全国で2例目・西日本初の「二つ星」に認定されている。



彼女が今担当しているのは飯南町とタッグを組む「森林セラピー推進事業」。イベントやツアーの企画・情報発信から、当日のツアーアテンドまでを行っている。「正直、入るまでは全くの森林セラピー初心者でした。3時間のコースも「長いなあ」と。でも実際体験すると、ただの「森って気持ちいいよね」じゃなくて、それぞれ得意分野を持つ森の専門ガイドと一緒に、五感をフル活用して森を感じる専門プログラム。これは3時間かけるべきだなと思いました。森にも山にもさほど興味がなかったという彼女。今では休日に登山を楽しむほどになった。

森林セラピー®に3時間…?



「余白」をブランドメッセージに掲げる飯南町。そんな町の観光の仕事はどう捉

町の「あたりまえ」にスポットを。

環境が変われば、いろいろ変わる。飯南町で生まれ育ち、福祉の学校と仕事で岡山と松江へ。5年前に飯南町にUターンし、飯南町観光協会で働く大上さん。「飯南町に戻る前は、割とキツイ性格だった気がします」。終始にこやかに朗らかなオーラ全開の彼女を前に、その言葉が信じられない。「飯南町に戻ってから穏やかになりました。片頭痛もなくなりました。働き方も、考え方も、興味の方も変わりました」。住む場所も、仕事も、全て変わった彼女は今、趣味の「発酵」に心をとぎめかせている。

えているか、彼女の思いを聞いてみる。「飯南町には無いものもたくさんあるし不便もありますが、観光協会の仕事はこの町の「あたりまえ」なものに価値をつけてPRすることだと思っています。私たちがその価値に気づき、発信し、それに響いてくれる人がいるのが嬉しいです。私自身は、不便は楽しむ派です。ゆっくり時間をかけたり、無いものはつくればいいので「そうやって彼女は穏やかに笑う。」

学びたガール

Worker.1
大上 祥子
Shoko Ooue



腐らせないようにするには？ どの過程でおいしくなる？ シンプルな材料だけで、なぜおいしくなる？ なぜ1年以上も持つ？ 「発酵のメカニズム」に興味津々。



「学びたい」が尽きない。

今、彼女の心を捉えているのは「発酵」。きっかけはコロナ禍で友人と味噌をつくったこと。「半年後に持ち寄って「味噌お披露目会」をしたら、一緒につくったのに風味も色も違うのが、楽しくて」。その後は各地のワークショップ、講座、地元の「とんぼ加工研究会」などに参加し、どんな「発酵」の虜に。「家の冷蔵庫の一番上は私専用。味噌、甘酒、麹、酒粕…色々つくっては、家族にふるまっています。日々実験です」。

コロナ禍のオンラインでのつながりも彼女にとっては追い風となった。島根だから、飯南町だから参加できなかったイベントもオンラインで参加できるし、学びたいことを学べる。「オンラインフツ軽」なんです」と微笑む。尽きない「学習欲」は、彼女の輝きの源なのだろう。そして学んだことを教え、活かしていくことが、今の彼女の目標だ。



二人三脚パプリカ

Worker.2
井上 頼重・優
Yorishige Inoue, Yu Inoue



全然違う前職。

井上頼重さん、優さん夫妻が二人三脚で営む農園「Yfarm」。2025年に2棟増設し、計6棟となったビニールハウスで、飯南町が力を入れる作物「飯南パプリカ」を栽培している。

カラッと明るい雰囲気、2人は、共に生まれも育ちも大阪。飯南町に移住して6年目になるが、以前は2人とも大阪の新聞販売店で働いていた。頼重

さんは営業と配達、優さんは事務を担当し、生活リズムはバラバラ。一緒にご飯を食べたり、出かけたたりすることもほとんどなく、「帰宅しているかどうかを玄関の靴で確認する」ような日々が続いていた。

「経済的な不安はなかったものの、この生活を続けていくのはどうだろうか？」と次第に疑問を感じるようになり、「2人で一緒にできる仕事はないか」と考え始める。たまたまテレビで見た

田舎暮らし特集をきっかけに、「農業なら2人で働けるのでは？」と気軽な気持ちで調べ始め、偶然見つけた大阪開催の島根移住フェアに足を運んだ。

「2人で一緒」がマスト。

それまで島根県を訪れたことは一度もなかった2人。まさか移住することになるとは思ってもいなかったこの町

に来てから、2026年2月で丸7年になる。

島根移住フェアでは、農業、畜産、漁業、林業など、さまざまなブースが並んでいた。畜産も検討したが、勤務時間が男女で分けられると、以前と変わらず生活がバラバラになるため断念。

「何の仕事を探していますか？」と聞かれても明確な答えはなかったが、一つだけ心に決めていたのが、「2人で一緒に過ごせる仕事」ということだった。



なぜ、飯南町？

「フェアの帰り際、飯南町役場の担当者とはまたま話したことが、大きな転機となる。限られた時間の中で、仕事や住まい、そして農業に関する制度について、具体的に分かりやすい説明を受けた。特に印象に残ったのが、農業を始める際のビニールハウスや設備にかかる初期投資をサポートする「飯南町リースハウス整備事業」の制度だった。移住の大きな不安要素である「仕事」と「住む場所」に

ONもOFFも
マイペースに
満喫！

遊びも！

仕事も！

「頼重さんは楽器、私はドライブで遠出。休みはそれぞれ自由に楽しんでいます」と優さん。

から10月までが収穫のピーク。冬は雪が多く、気温も下がるため栽培は行わない。繁忙期は朝は5時に起き、5時半から現場へ。夜は7時半〜8時頃まで作業が続く。「昼ごはん食べる時間も惜しい！と思うんです。限られた3ヶ月でどれだけ収穫&収益を上げられるかが勝負。4月はアドレナリンが出てますよ！」と、2人は楽しそうに目を光らせる。

「楽しい農業」とは。

YYfarmは今後、規模を拡大し、雇用を生み出すことも視野に入れている。「移住や就農は簡単なことではありません。シビアな話をする、ビニールハウス1棟でおよそ600万円、トラクター1台で300万円ほどかかります。その数字を見てもやってみようという人に、リースハウス制度だけでなく、雇用という形の受け皿をつくれたらと思うんです。少しでも、農業に関わりた



メロンの3つから選択することで、指導者や販路のサポートを得た。

アドレナリン放出

今、YYfarmではメインでパブリカを、夏はトウモロコシ、冬はミニ白菜もつくっている。移住当初と比べここ数年で販路が拡大し、関西の高級スーパーなどにも出荷され、単価も上がった。「飯南パブリカ」ブランドが少しずつ浸透しつつあるのだ。

4月に植え付けを行い、8月のお盆頃

対する受け皿が、飯南町にはあるということを知る。「まずは遊びに行ってみようか」と飯南町を訪れ、移住者向けのお試し住宅に宿泊。ホテルではなく住宅で暮らしたことで、結果的に生活のイメージがしやすくなった。そこから移住を決めるまでには約1年。その間に3〜4回ほど飯南町を訪れ、ついに移住に至った。

農業初心者への、第一歩。

他県も検討したものの、飯南町を最初に見たことで選択肢が絞られた。「情報を集めすぎると決断できなくな

ると思って」と頼重さん。判断力と行動力があるところも2人は似ている。とはいえ、農業は全くの初心者。始めるにあたり、飯南町の「産業体験制度」を活用し、農家の師匠のもとで実践修業1年、さらに県立農林大学校にてブランドイングやマーケティングなどのノウハウを習得。「師匠は職人なので、勤や体感で農業と向き合うところに学びがあります。我々は初心者なので、分からないことは1年間集中して大学できっちり補うことができました。」

修業&体験を通じて、リースハウス制度を利用することを決意。作物は、飯南町の主要作物、トマト、パブリカ、



※飯南町リースハウス整備事業：新規就農者が安心して農業経営を始められる環境を整えつつ、町の振興作物の生産拡大につなげるため、施設整備にかかる初期費用の負担を軽減する支援制度。



Q 今の仕事のいいところは？

A 業務時間がきちりしているところですかね。8時～20時で勤務時間は長めなのですが、休憩も休日もしっかりいただけます。基本的に4日日勤して、2日休み。大型連休も多く、プライベートの時間をしっかりつくれるのは嬉しいです。



Q ブレイクダンスはどれくらい続けているんですか？

A 中学2年生の時に、動画でブレイクダンスを見てハマってから、ずっと続けています。ダンス歴は19年くらいです。中高は独学で、大学に行くからはダンス仲間に教わり、その後は習いにも行きました。今は岡山や出張に遠征に行って、ダンスバトルに参加したりしています。

Q ダンスは日々のモチベーションですか？

A はい、だいふ(笑)。回らないとすっきりしないな、と思うことも結構あります。家でも隙あらばダンスしていて、まるで「歯磨き」みたいに日常になっています(笑)。仕事をしながら技のことを考えたり、人の動画をみて「この動きいいな」と参考にしたり。暮らしの中でのダンスのウェイトがかなり大きいです。

Q 仕事と自分の時間のバランスはどうですか？

A 人間関係もよく、休みもしっかりとれるので、バランスはいいです。いろんな働き方があると思いますが、自分みたいに趣味を大切にしたい方には、この仕事は合うのかなと。職場には趣味を持っている人も多く、メダカを育てたり、盆栽をしたり。車好きも多くて、仕事終わったら集まって車談義をしています。飯南町はドライブやツーリングに最適なので。



Q 飯南町での暮らしは、どんな人におすすめですか？

A 「遊びをつくれる人」ですかね。都会のようにカラオケに行ったり、居酒屋をはしごしたりはできません。その代わり自然はたくさんあるので、キャンプをしたり、その日の気分でいろんな温泉に行ってみたり、ウィンタースポーツや川遊びをしたり。楽しみ方や遊び方を自分でつくれる人に、飯南町はおすすめです。

Q 関西で働いた後、飯南町に帰る時に仕事の不安はなかったですか？

A あまり不安はありませんでした。仕事も特に決めず、「これが絶対やりたい」とかもなく。親戚が働いていたこともあり、現在の職場に就職して、今年で6年目になります。従業員はおよそ50人で、長く働いている方が多く、若い人や地元の知り合いもいて、働きやすいです。

Breaking Break.

Worker.3
石橋良一
Ryōichi Ishibashi

飯南町出身。大学進学を機に関西へ移り、卒業後は介護の仕事に4年間携わった石橋さん。家族や友人のいる飯南町へリターンし、オージェイケイ株式会社の島根工場に就職。休日には中学生の頃から続けている趣味のブレイクダンスに情熱を注いでいる。出会った瞬間に分かる、彼が纏う穏やかな空気感。その理由の一つに「仕事と趣味の理想的なバランス」があった。

Q 仕事内容は？

A プラスチックシートを製造して原反にし、県外へ運びます。大きく分けると「製造」と「物流」があって、自分は製造を担当しています。基本は工場での作業ですが、人との会話や関わりも結構あります。



“向いてる”を“コッコッ”を“コッコッ”

仕事も趣味も。

広島県三次市で生まれ、5歳の時に父の地元である飯南町へ来た田部柚季さん。飯南高校卒業後、出雲にある福祉系の学校へ通い、2025年から飯南町にある介護事業所で働きはじめた。そんな介護士1年生のフレッシュな彼女には

「介護士と神楽団員としての昼と夜の2つの顔がある。」

彼女の判断軸。

高齢者の多い飯南町には、様々な福祉施設がある。その中で彼女が選んだのが「小規模多機能型」の居宅介護事業所だ。宿泊、通い、訪問など様々な利用者がいる小規模多機能。仕事内容も幅広く、入浴や着替えの介助から、泊まりの対応、訪問でのサポート、さらに買い物や病院への付きそいもある。「病院の受診をサポートすると、家族の代わりに先生の話聞きます。一人暮らしの方にお話をしたりすることで、少しでも寂しさみたいなものをうめてあげられたらと思います」。

分以上を神楽とともに歩んでいることになる。

仕事が終わると、週に2回神楽の練習へ。飯南神楽団には介護士、看護師、消防士などさまざまな職種の人が出て、生活リズムもバラバラなため、2回のうち1回は人数が揃う日に設定されている。「出雲の学校に通っていた2年間も、毎週練習のたびに学校の後、車で飯南町に帰ってきていました。実家に泊まったり、そのまま夜に出雲へ戻ったり、2年間ずっと」。社会人になった2025年は特に奉納神楽が多く、10月はほぼ全ての土日が埋まっていた。「仕事の早番が終わってからそのまま神楽の本番へ行ったり、本番が終わってから夜勤に行ったりしてました(笑)」。遊びたい盛りなのに!?!と思わず口から出てしまった。

“神楽バカ”な仲間たち。

飯南神楽団には若いメンバーも多く、練習のために大田や浜田から帰ってくる人もいます。「みんなで飯を食べたりお酒を飲んだりすると、気づけばずっと深夜まで神楽の話。酔っ払って神楽を

仕事内容も多様。福祉の仕事の中でも大変な道なのは?と聞くと、彼女は学校の授業で習った時から、小規模多機

けれど、学生の頃に自己分析をし、自分に合った道を選ぶのは簡単なことではない。

神楽は、世代を超える。

仕事をしていて大変なことは?とたず

二つの顔



世代を越えたコミュニケーションの種に「神楽」が一役買っているという。

「神楽は年齢関係なく楽しめるし、飯南町は神楽に馴染みのある人が多くて、施設の利用者さんとも、神楽が共通の

会話になるんです。」次はいつあるの? がんばってね!と、声をかけてもらってるんです。おじいちゃんおばあちゃんがたくさんできたような気分です(笑)「

日常の中の神楽。

彼女が今の職場を選んだ大きな理由の一つに「神楽」がある。学生時代の実習で訪れたことや、所属する飯南神楽団の先輩が働いていることもあり、「神楽もできるし、ここで働きたい」と自然に思うようになったという。

能に興味を持っていたという。「大変かもしれませんが、学べることの幅が広いのと、体を動かすのも好きなので、やるのが多様で忙しい方が自分に合っているかな」と思っている。当たり前のように彼女は言う

ねると「利用者さんと60〜70歳離れているので会話やコミュニケーションがとれないこともあって、私が昔のことを知らないのも、勉強したいと思っています」と、少し悔しそうに言った。けれどそんな

している飯南神楽団がほぼ同い年なんです。小さい頃から父が舞っているのを見て育ち、小学校3年生のときに神楽団に入りました。気づけば12年目になります」。21歳で12年目。人生の半

しはじめたり(笑)。本当に「神楽バカ」ばかりです」と楽しそうに話す。

そんな「神楽バカ」の熱量は、他の神楽団を見に行ったり、動画をみて「ここはもう少しこうしよう」と議論し合うこと

生まれるセッション。

彼女が虜になる「飯南神楽」の魅力は、ずねた。「広島神楽の流れで、衣装も演出も華やか。舞もしますが、私が主に担当しているのは「奏楽」、特に笛です」。他の神楽

楽しくて。

彼女にとって囃子は、重たい衣装で舞う舞手への「エール」。舞手を後押しし、引く張る存在だと考える。「舞手がのると、囃子ものってくる。舞に合わせて囃子があるし、囃子に合わせて舞手が動く、そんな見えない

力です。もっと盛り上げて欲しいとき、舞手が視線で「もっとこい!」って煽ってくることもあります(笑)。そのセッションが好きなんです。彼女の表情が伸びやかになったように感じる。

プライベートの時間がなくて大変では?と聞くと、「よく言われますが、神楽が息抜きなんです。練習に行けないと物足りないくらい。神楽のない生活は考えられません(笑)」。『飯南神楽団の笛といえ



につながっている。また、飯南高校の神楽愛好会ではOBとして高校生たちのサポートも。「若い世代にもつないでいけたら」と彼女は言う。

を見て、自然と目がいくのは囃子だという。元団長の大太鼓が大好きなんです。力強く叩きながら歌って、にこっと笑う。その太鼓に合わせて

“好きなこと”をのびのびと。

声を聞く男

東京から飯南町に
「ターンした経緯は？」

実は、飯南町を目にかけて来た！というよりは、いろんな「流れ」です。妻が教員で飯南町出身なので、引越すことになりました。来る前は雲南市で4年ほどNPOで働いていました。そこを辞めて東京に戻ることも考えましたが、もともと人混みあまり好きじゃなくて。「もういいや、開業してしまえ」と(笑)。フリーランスならパソコン一つあればどこでも仕事ができるので、飯南町にきました。

フリーランスの仕事内容は？

主にNPOなど非営利法人のサポートをしています。東京時代からずっとNPOの仕事をしていて、子どものプレーパークを365日、行政委託で運営するNPOで働いていました。学童指導員やプレーパークスタッフをしながら、次第に経営や人事、運営にも関わるようになり、その経験を活かして今は県内外のNPOを外都パトナーのような形で支えています。東京や福岡に月1回ほど出張することも、現在主に携わっているのが「全国子どもアドボカシー協議会」。子どもの意見をもっと尊重しよう、という全国組織です。基本はフルリモートで、飯南町に住みながら外とつながる働き方をしています。

そのほか、毎週水曜日は順原の学童さんの協力を得て「放課後外遊びキャラバン」というミニプレーパークを、月1回は道

「飯南町」を表現すると？

暮らしの面では、ツーリングやドラマイブ、温泉好きには天国ですね。「ほぼ貸し切り、源泉かけ流しで、この金額!」みたいな(笑)。仕事面では、フルリモートの人や町を変えたい人に向いていると思います。人口約4000人というサイズ感が絶妙で、自分の動きがダイレクトに



Worker.5
佐々木康弘
Yasuhiro Sasaki



の駅とんぼらの裏でプレーパークを実施しています。

活動をされている
「大人の生命地域学」とは？

町の課題として子どもの放課後時間の主体的な外遊び体験の不足を感じていました。このアイデアを公民館長さんなどに相談したところ、やってみたいと背中を押していただき、町主体の取り組みである「大人の生命地域学」に応募することに。採択されて2025年に始まりました。

東京と飯南町、遊び環境の違いは？

やっていること自体はあまり変わりませんが、東京のプレーパークは人口が多いこともあり、土日には2〜3000人の来園も普通です。また保護者は「自然体験」を求めている方も多く、ニーズを感じていました。一方、飯南町では「自然遊びできるよ」「焚き火できるよ」と言っても人は来ない(笑)。自然が日常なので、まず保護者が興味を持ちにくいし、子どももイメージできないことには関心を示さない。といっても子どもたちと遊び場で関わっていると、もっといろんな体験をしたいと潜在的には思っていることが伝わってきます。土や水、チョークを用意するだけで、何週間も遊びを変化させ、続ける姿も見られます。東京も飯南町も本質的には子どもは変わらないけれど、

町に届く。東京だと全ての子どもに届くようになると、何十年もかかる感覚で、「その間に子どもも育っちゃうよ」と思っていました。飯南町では人に恵まれていて、町長に直接提案できる機会もいただけたり。その分責任はあるけど、「自分たちの力で変えられる感覚」が感じられる町だと思えます。

「公園で何して遊びたいか？」をアン

「公園で何して遊びたいか？」をアン

「公園で何して遊びたいか？」をアン

ケートしたら、秘密基地、落とし穴、逃走中、田んぼで米作り、りんご作り...と(笑)。あそびもヒアリング

田んぼやりんごは、町で目にしてるからその意見です。137種類のアイデアが出て、遊具は20種類ほど。子どもの公園といえば、大人はまず遊具を思い浮かべるけど、子どもの本音は違いましたね。放課後外遊びキャラバンでも、子どもへのアンケートをとって

類ほど。子どもの公園といえ、大人はまず遊具を思い浮かべるけど、子どもの本音は違いましたね。放課後外遊びキャラバンでも、子どもへのアンケートをとって



これから挑戦したいことは？

簡単ではないですが、まずは「放課後外遊びキャラバン」を町内全体に広げたい。また、町が子ども向けの施策を考える時に、子どもの声を反映させるお手伝いができる存在になれば。最終的には、全国の小規模自治体で実施できる放課後の外遊び場づくりのモデルを飯南町でつくりたい、そんな野望を持っています。

とにかくこの町のサイズ感と子どもたちが本当に好きなんです。都会と違って、今は町内の小学生の半分くらいの子の顔も名前もわかる。だからこそ、この子たちの声や主体的な外遊びが大切にされる環境をつくるためなら、できることをなんでもやりたいと思えますね。子どもたちは僕のことを「やっぴー」と呼ぶので、本名は覚えてないかもしれませんが(笑)。



飄々兄弟

worker.b
森島優輝・亮哉
Yuki Morishima, Ryoya Morishima

受け継ぐ2人

森島兄弟は2歳違い。兄・優輝さんは広島で、弟・亮哉さんは出雲の専門学校で、それぞれ建設関係の勉強をし、5年前に同時に、2人の父親が経営する総合建設業・森島建設株式会社に入社した。森島建設には、建設業・生コンクリート製造・販売、介護事業の3つの事業があり、2人が所属するのは建設業。道路や橋、公園などの工事ももちろん、災害時の復旧作業も行う。「地域に役立つ実感がある」と、年を重ねても形に残るものをつくれることがやりがいです」と優輝さんは言う。

若き現場監督

兄弟はそれぞれ現場監督を任されているため、一緒に現場になることはほとんどない。現場監督の仕事は多岐に渡る。予算管理や材料の手配、事前の段取り、



スケジューリングまで担う。「例えば雪や大雨で工事は進まないけれど、従業員さんには出勤してもらってるとか、調整が難しいですね」と優輝さんは、亮哉さんは「社外の下請け業者さんにも動いていただいているので、予定通りに進めることも考えながらやっています」と言う。入社5年目で、若くして現場監督を任される2人の兄弟。「うちの社長が『若いうちからやらんとわからん』という教えなんです」と2人は語る。

ONとOFF

「土日祝はしっかり休みだし、勤務時間も8時〜17時できっちりしているの、プライベートの時間を大切にできるのがいい」と、2人は声を揃える。福利厚生もしっかりしていて、最近では社員の声で社内野球チームが発足したという。

「練習は、できる人が無理なくしてます。ゆるく楽しんでる感じです」。そう言いながらも、ちゃっかりかっこいいオリジナルユニフォームがある。下請けの会社から助っ人を呼んだり、対戦相手の他社チームと試合後にパーベキューしたりと、和気あいあいと楽しんでいるようだ。

こぼれた言葉

同じ勤続年数、同じ役職。「兄弟で比べられたり、働きにくかったりすることはありませんか？」とたずねると、2人はキョトンとした顔をして「ないです」ときっぱり答えた。「家では仕事について話すことすらないです。ゴルフの話ばかり(笑)」と笑う。家業を継ぐということについても、幼い頃から特別には意識していなかったという。

「ずっと迷いなく生きてきて、今も不満もないです。やるしかないもん」。終始ゆるやかで飄々とした2人から、一瞬だけこぼれたリアルな覚悟の言葉。

プラスとマイナス

兄弟喧嘩はしないけれど、亮哉さんと社長は時々喧嘩をするという。「俺と社長は思ったことをスパスパ言うので現場で言い合うことはありません。2人も後引く性格じゃないので、ケロッとしています」と話す亮哉さんを、少しヤレヤレ顔で優輝さんが見守る。「弟のいいところは元気なところ。なんだかんだ仕事をちゃんとするところ。ちょっとガサツだけど」と兄。「兄は優しくて、やおい。悪いのはキチキチし過ぎなことかな」と弟。

お互いがプラスとマイナスを補い合える最高のバランスだということに、2人は気づいているだろうか？



まちづくり推進課

建設課・出納室

Q 移住を検討するなら、
まずは何をするのがおすすめ？

A 「飯南町体験プログラム」に参加すると、町内案内やリアルな暮らしが見れるにゃ。しかもにゃんと各種体験や宿泊費の減免もあるにゃ。他にも定住支援センターに問い合わせしてみるといいにゃ。

Q 具体的にどんなサポートがあるの？

A 例えば子育て支援だと、おむつなどの子育て用品の給付や保育料の軽減があったりするにゃ。Uターン移住者には住宅や仕事の支援、特に農業を始めたい人へのサポートは手厚いにゃ。移住者の不安を町ごとサポートする仕組みがあるにゃ。

Q 飯南町で働くには？

A 人材確保支援センターにまずは相談にゃ。この冊子のP25にも企業紹介を掲載してあるので要チェックにゃ。

Q 飯南町って暮らしにくいなの？

A 飯南町は「住みたい田舎ベストランキング」で何度も1位をとったことがあるにゃ。子育て、移住定住などの支援が特にポイントだにゃ。

Q い〜にゃんさんのこれからの目標は？

A この仕事も今年で21年目！目標はずっと変わらず「飯南町の良さを広めること！」だにゃ。中堅ににゃっても初心忘れずがんばるにゃ。

幸運を招くにゃ

worker.7
い〜にゃん
iinyan



Q い〜にゃんさんの仕事は？

A 飯南町を元気にするための広報活動を担当しているにゃ。イベントに呼ばれたり、企業とタイアップしてCMに登場したこともあるにゃ。

Q 飯南町ってどんなところ？

A 島根県中南部の飯石郡にある、人口約4,200人の町だにゃ。標高約450mの高原地帯にあるから気温は少し低め。面積の約9割を森林が占める、のどかで自然豊かな町にゃ。

Q 飯南町の見どころは？

A 冷涼な気候がつくる「飯南米」や高原野菜がとにかく美味！全国屈指の森林セラピーや、出雲大社の神楽殿の大しめ縄をつくっていることでも知られてるにゃ。





北極星を目指して。

街灯のない、あたり一面真っ暗な田園風景の中に、ぼつんと青い星が浮かんでいる。

1日1組限定の宿「星の宿り」のバーが空いている合図に、星のライトが灯される。訪れる人の目印となる、北極星のようだ。「築150年以上の古民家を改修した宿」と聞いていたが、実際は「古民家」というより「お屋敷」と呼びたくなる日本家屋。隣には蔵があり、昼はカフェ、夜は時々バーになる。

セカンドライフの選び方。

オーナーは前田一光さん・由香里さんご夫妻。約5年前に飯南町へ移住した。夫・一光さんは合併前の赤来町出身で、大学進学を機に関東へ渡り、卒業後はエンジニアとして外資系企業に勤務した。大阪徳島、東京、横浜などを転勤しながら42年間働き、定年を機に飯南町へリターンした。静岡県生まれの妻、由香里さんは、生まれてはじめての島根県だったという。

一光さんは定年後、

就職ではなく自分で何か始めたいと考え、エンジニアの頃から興味があった民泊をすることを決意した。「場所は最初から飯南町と決めていたわけじゃなくて、妻は海が好きなので沖縄の孤島もいよいよねと話していました」。県内外様々な場所を検討する中、今の建物を最初に見つけたのは由香里さん。「広すぎると思って候補から外していたけれど、見てみると風景も建物も立派で綺麗で。夜も見てみようと思いました」。夜に

セカンド☆ライフ



Worker.8
前田一光・由香里
Kazumitsu Maeda & Kagura
Yukari Maeda
& Kagura



訪れた2人が車のエンジンを切ると、一面の真っ暗闇。「近くにいるのに姿が見えないくらいで(笑)。でも見上げたら満天の星空がすごかった。そこにふわっとホタルが飛んできたんです」。

その瞬間「ここでいいんじゃない?」と2人は決意したという。

を重ねてきた2人の姿が浮かぶ。宿を始めて5年、コロナ禍を越え、県内外からのリピーターも増えてきた。

「どの季節に来るのがおすすめですか?」と聞くと少し悩み「冬はすごく寒いけど、星の美しさは桁違い。マイナス4度でも10分だけ星を見よう」って外に誘ったりします」と一光さん。雪が降って翌日晴れると「田んぼがしみる(凍る)」そうで、「田んぼの真ん中まで歩いて行けるんですよ」と少年のように言う。雪を集めてつくる「雪のステージ」で星空を眺めるのも2人のお気に入り。「海が好き

でしたけど、星があるからここがいいです」と由香里さんも微笑む。

仕事ではなく、暮らしを選ぶ。

「飯南町は仕事だけで選ぶより、暮らし方や自然で選ぶ方がいいように思います」と一光さん。田舎は人と関わらずに暮らせると思われがちだが、実際は人とのつながりが欠かせない。地域の関わりを楽しめる人ほど、暮らしは広がっていく。

宿のイチオシ体験は「看板犬・かぐらと朝散歩」。散歩をしていると近所の方に声をかけられたり、野菜をもらったりします。以前、県外から来たご家族が「島根で何が一番楽しかった?」と子どもに聞いたら「犬の散歩」と言ったそう(笑)」。笑いながら話す一光さんの横で、かぐらが元気に走り回っている。



星と過ごす宿。

立派な梁のある土間を抜けると、3間23畳の広々とした和室が広がる。丁寧に整えられた空間から旅人を迎える準備

Mr.マルチワーカー

worker. 田中 稔 Minoru Tanaka



一人何役？

最初に会ったのは、さつまいも農家の田中稔さん。芋掘りの手を止め、畑から作業着のまま現れた。日に焼けた肌とここにこの笑顔が、いかにも太陽の下が似合う人だ。次に会ったのは定住支援センターのデスク。ピシッとスーツを着ていると別人のようだが、よく見ると足元はアウトドアシューズだ。週に2〜3日は

事務所に出勤し、定住支援の相談員として働いている。そして、飯南町が真っ白な雪に覆われ、農業が落ち着く冬は、琴引フォレストパークでレストランの接客&調理をしているという。「実は調理師の免許を持っているんです」。何でもないことのように彼は言った。



マルチなワークが過ぎる

なぜ彼がそんな働き方ができるのか？その理由は、3つの仕事の比重を季節や時期によって切り替えるスタイルにある。春から秋は農業と定住支援が中心。冬は農業が落ち着くため、スキー場のレストランで厨房と店舗運営を担っている。飯南町という場所ならではの特性を活かした働き方だ。

さつまいも栽培は植え付けと収穫の時期以外は比較的手がかからず、定住支援センターの業務が中心になる。内覧希望があれば週末も対応し、電話は転送設定。畑にいながら移住相談に応じること



も珍しくない。「芋掘りをしながら、軍手で電話に出ることもありますよ(笑)」

さつまいもの栽培は「この日でない」と絶対にダメ」という作業が少なく、他の仕事と柔軟に組み合わせられるのが強みだという。

初心者の挑戦

彼が家族と大切につくるのは、無農薬・無化学肥料の人にも地球にも優しいさつまいも。妻がさつまいも好きだったことがきっかけだ。始めた時は本当に素人で、肥料を風上に向かってファーって撒いて、全部自分にかかるみたい(笑)。

そう楽しそうに振り返る。最初は地域ブランド「森の網」の生産者としてスタートし、知識を蓄えるうちに挑戦の幅が広がった。今では完全無農薬、微生物のみ、ビニールマルチも使わず草マルチだけで栽培している。

「由来八幡宮のすぐ下にある、長らく空き家だったこの場所から、由来にあかりを灯したい」と思って、子どもたちの「先



行き「まで明るくなるように」という願いも込めています。あと、妻との想い出の「スノーキャンダル」のイベントから「ゆきⅡ雪」と思い込んでいたら、予想外のトリプルミーニングだった。



移住者や町民を集めて行う、月一のお話会「ごめたば」を始めて5年目。この日は鍋会。



さつまいも工房ゆきあかり
<https://www.instagram.com/spf.yukiakari/>



飯南町 定住支援センター
<https://www.iinan.jp/site/ijyuu/>



琴引フォレストパークスキー場
<https://ski.kotobiki.co.jp/>

エンターテイメントを生きていく。

1%の道

東京生まれ東京育ち。37歳で島根に移住するまで、田中さんはずっと東京で働いていた。「元々は某テーマパークで働いていました。どんなに疲れていても、お客様に疲れた顔は見せず、100%以上のパフォーマンスを提供する。人を喜ばせること」の基礎は、その頃に培った気がします」。

その後、友人の結婚式を機にウェディングに興味を持ち、ウェディング・プランナーの道へ。「結婚式は、たった1日のために、長い時間とお金をかけます。もちろん失敗は許されません。徹底的に準備して、尽くして尽くして、尽くすんだと教えられました。その考え方は今も変わりません」。

ウェディング・プランナーとして東京で働いた後、ウェディングを行うレストランで働くため、島根県松江市へ移住。慣れない土地と環境に四苦八苦し「1ヶ月で10キロ痩せました(笑)」と当時を振り返る。ちょうどその頃、飯南町にあるホテル「もりのす」への転勤の話が持ち上がった。その時、1日だけ会社をサボって玉造温泉に行ったんです。1人で4時

間くらいぼーっと風呂に浸かりながら「自分がしたいのはウェディングで、ホテルではない」と考えて、99%転職する方向だったんです。でもなぜか、湯船の中でそれがひっくり返って。気づいたら飯南町に行かせてください」と自分から手を上げていました」。彼はどんなことも楽しんでに話す。根っからのエンターティナーなのだ。

飯南町ならではのウェディング

飯南町の「もりのす」では、清掃、調理事務、SNS発信、ベッドメイクなどのホテル業務をこなしながら、合間でウェディング・プランナーも続けた。はじめて受けたのが「2泊3日のウェディング」。「宿泊つきのウェディングで、せっかく飯南町でやるなら、食べ物も装飾品も全部飯南町で揃えよう」と。しめ縄のウェディングブーケを提案したり、地元のお店にオリジナルアイスやケーキ、カレールーをお願いしたり。まさに「飯南総力上げてのウェディング」でした。おまけに町のキャラクター「いっちゃんまで登

場して(笑)」。

当時、ホテル職員は田中さん1人。文字通り寝る間も惜しんで準備したという。大変ではあったものの、この経験をきっかけに町内の人とのつながりが生まれた。「遊ぶところがないのでナイトシアターをやらう!」と、町民と一緒にイベントも開催した。

「田舎は、何でもやらんといけんけんね」田中さんが移住当初に町の人からかけられた言葉。草刈り、掃除、調理、接客事務……。その場で必要なことをするのが当たり前の環境で、自然とマルチに働く感覚が身についた。「定住支援で移住希望者の話を聞いていて思うのが、その人がその地域を全力で楽しめれば、どの場所でも正解ってことです。飯南に来て、雪が嫌だとか、コンビニが少ないとか、ネガティブに考えず、コンビニ1軒で、しかも24時間じゃないんすよ(笑)」とか「雪がやばくて、朝もかいて夕方もかいて、夜もかくんすよ(笑)」と捉えれば全部ネタになる。どこで暮らすかというより、どんな視点を持つかなんだと思います」。いくつもの肩書とフィールドを歩き来しながら、田中さんは今日も「誰かのために」、そして「楽しそうに」働いている。

やりたいこと、やったもん勝ち

もりのす、芋農家、スキー場。家族の間や体力的なことを考え、やがて3つの仕事を続けるか悩む時期が訪れた。悩みの突破口となったのは息子が口ずさんだ歌。「やりたいこと、やったもん勝ち」。

「なぜそんなにがんばれたんですか?」と思わずたずねる。「誰かに決められて飯南町に来ていたらもっとネガティブだったかもしれません。でも、自分で決めた手を上げてきたので。1ミリも妥協なんかできないな」と。きっぱりとした口調で彼は言う。

楽しめる力

支援相談員の仕事が重なり、今の働き方につながっている。そう、バラバラに見える全てにつながっているのだ。





有限会社正木建設

総合建設業
(公共・民間土木工事、
公共・民間建築工事)



株式会社藤原建設

土木工事、産業廃棄物処
理業、除雪業務、凍結防
止剤散布



株式会社後藤建設

建設業(土木工事業、建
築工事業その他10業種)



飯南町立飯南病院

公立病院
(一般病床48床、
救急告示病院)



COMPANY LIST

飯南町内 企業リスト

各企業の詳しい情報は、QRコードのリンク先からご確認いただけます。
また飯南町ホームページの中でも多数の企業を紹介しています。
右記のQRコードからぜひご覧ください。

飯南町HP



お問い合わせ先 飯南町まちづくり推進課 TEL:0854-76-2864



松田建設株式会社

土木工事、舗装工事、
建築工事、農業参入事業



森島建設株式会社

建設業、生コン製造販売、
介護福祉事業
▶p15にて紹介



株式会社カゲヤマ産業

運送業、建設業、飲食業



飯南町社会福祉協議会

福祉サービス事業
(生活支援サービス、介護
サービス、保育サービス)



有限会社いおり

介護施設(小規模多機能
型居宅介護事業所)
▶p11にて紹介



特定非営利活動法人 晴雲の里

地域活動支援センター、
就労継続支援B型



飯石森林組合

森林整備、原木・舞茸生
産販売、苗木生産販売
等



有限会社ラブリーしおだ

家電製品小売、
電気工事、電気通信工事
ほか



島根電工株式会社

設備工事業
(電気、管、通信)



株式会社ニチフレ島根

コントロールケーブルの
製造



頼原精機株式会社

建設機械等の機械加工
部品製造



オーゼイケイ株式会社 島根工場

プラスチックシートの製造



▶p9にて紹介



飯南町注連縄企業組合

各種しめ縄製作販売



飯南町地域づくり協同組合

特定地域づくり事業とし
ての労務者派遣事業



飯南町役場

一般行政事務など



▶p17にて紹介



頼原天然炭酸泉ラムネ銀泉

温泉入浴施設運営、
管理、営業



株式会社なつかしの森

飲食店経営 農作物栽培
菓子類の製造加工並び
に販売



日本郵便株式会社

郵便業務、郵便局を通
じた郵便・貯金・保険の
各サービス等の提供

